

講義名	栄養指導論 I
開講学年	2
単位	2

授業の達成目標	<p>授業の達成目標 1. 栄養教育（指導）の目的と必要性を理解する。</p> <p>2. 栄養教育（指導）を行うにあたり、健康・食物摂取状況のアセスメント方法の理解を深め、媒体・教材を選択する能力を習得する。</p> <p>3. 食行動の成り立ち、およびその変容の背景を行動科学的観点から理解する。</p>
授業の概要	<p>対象者に適切でかつ効果的な栄養教育（指導）を行うため、アセスメント方法や栄養教育プログラムの作成方法を学ぶ。対象者の行動変容を促すために、行動科学理論やカウンセリング論に基づく支援方法を学ぶ。</p>
授業形式	<p>講義（事例検討、実践も含む）、パワーポイント（スライド）を使用</p>

#### 授業計画表

回	項目	内容	キーワード・備考
1	栄養教育の概念-1	オリエンテーション 栄養教育の目的・目標	栄養教育とは
2	栄養教育の概念-2	栄養教育の背景と推移 健康教育の歴史	プリシード・プロシードモデル、ヘルスプロモーション
3	栄養教育の概念-3	栄養教育の実施 栄養教育の対象と組み立て	動機づけ 教育対象
4	行動科学理論と 栄養教育-1	行動科学とは 代表的な理論やモデル-1 事例検討と演習	刺激-反応理論 ヘルスビリーフモデル トランスセオレティカルモデル
5	行動科学理論と 栄養教育-2	代表的な理論やモデル-2 事例検討と演習	計画的行動理論 社会的認知理論
6	行動科学理論と 栄養教育-3	代表的な行動変容技法や概念	刺激統制法、行動置換法、拮抗法・反応妨害法 認知再構成など

7	栄養カウンセリング-1	カウンセリングの基本	共感的理解 無条件の肯定的配慮 純粹さ、傾聴
8	栄養カウンセリング-2	栄養カウンセリングの特徴と基本姿勢 栄養カウンセリングの実際	マイクロカウンセリング
9	栄養カウンセリング-3	栄養カウンセリングの応用 効果的な質問 行動変容を促す面接法	閉ざされた質問 開かれた質問 動機づけ面接法
10	食環境づくりと 栄養教育	食環境づくり 組織づくり・地域づくりへの展開	食物へのアクセス 情報へのアクセス 組織・地域づくり
11	栄養教育マネジメント I	栄養マネジメントの枠組み 健康・食物摂取状況のアセスメント	PDCA サイクル 質問紙法 集団・個人面接法
12	栄養教育マネジメント II-1	栄養教育プログラム作成 目標設定の意義と方法 実際の流れ-1	目標の種類とその内容 プログラムの計画 (6W1H1B)
13	栄養教育マネジメント II-2	栄養教育プログラム作成 実際の流れ-2 栄養教育プログラムの実施に必要なスキル	教材の選択と作成 学習形態の選択 講義・討議形式
14	栄養教育マネジメント III	栄養教育の評価 評価の目的、デザイン、種類 測定や手法の信頼性と妥当性 評価結果のフィードバック、経済評価	実験・準実験・前後 比較・ケーススタディ デザイン 企画・経過・影響・ 結果・経済評価
15	栄養指導論 I のまとめ	単元のポイント（復習）と質疑応答	

事前・事後学習の内容	事前に教科書にて学習内容を確認する。
成績評価の方法	提出物と*授業態度：10%，学期末試験：90% *演習の取り組み態度， 忘れ物，私語，不必要な携帯電話の使用など、問題のある場合減点とする 評価基準は合計 90 点以上：S、85～89 点：A+、80～84 点： A、75～79 点：B+、70～74 点：B、65～69 点：C+、60～64 点：C、59 点以下：D とし、D は不合格とする。  ただし、出席が 2/3 未満の場合は評価をせず不合格とする。
教材	栄養教育論：医歯薬出版 適宜、資料、プリントを配布する